

## お寄せいただいた意見や要望について

意見・要望の内容	<p>①上水道の設備の設置位置を考えてほしい。取水口を河川の上流部に設置することで電気を使ってポンプアップする必要もなく、経費節減に有効。また、自然流下方式による発電や、水の電気分解により水素等も取り出すことで、エネルギー源として利用できるはず。</p> <p>②下水道処理も電力などを使わず、自然流下方式にした方が良い。</p> <p>③他市と協議し、地熱発電を検討してほしい。</p>
市からの回答	<p><b>【回答①】</b></p> <p>笠懸町、大間々町の上水道は、みどり市を含む3市5町で構成された群馬東部水道企業団が管轄しております。</p> <p>群馬東部水道企業団に確認しました回答は以下のとおりです。</p> <p>「みどり市での水源は渡良瀬川及びその支流である川口川から取水しており、川口川からは自然流下により取水していますが、渡良瀬川では溪谷が深いため、ポンプアップにより取水しています。ご指摘のとおり電気料金も発生しますが、取水量を確保するため、渡良瀬川からの取水に頼らざるを得ない状況です。また、小水力発電につきましては、過去に検討しましたが、流量が少なく発電量がわずかであることから断念した経緯があります。」</p> <p>なお、東町の上水道は、地形的にどうしてもポンプアップが必要な場合を除き、自然流下を基本として事業を行っています。</p> <p>ご提案のあった水の自然流下を利用した発電は、小水力発電として実際に採用している水道施設が他市にはあります。そのため、本市の簡易水道でも経費節減策として導入できないものかと検討した経緯がありますが、既存施設の高低差が小さく、取水量も少量であり、発電量もわずかであったことから、施設の改良費が大きく、経費削減とならないため、当事業施設においては、実施を予定しておりません。また、水の電気分解は、分解して水素を取り出す際に必要な電力が大きいことが課題となっており、実用化には時間を要する状況にあります。</p> <p><b>【回答②】</b></p> <p>本市の公共下水道は、群馬県の東毛流域下水道幹線に接続し、桐生水質浄化センターにて処理後、渡良瀬川へ放流しています。現在、下水の送水方式は、自然流下方式を原則とし整備を進めているところですが、みどり市の地形は、南北方向に傾斜しているため、流域幹線の各接続箇所より南部に位置する区域においては、自然流下で下水を最下流部に集水し、ポンプ施設から圧力方式にて送水しています。</p>

今後整備する区域についても、経済性や効率性等を考慮した整備を進めていき、みどり市に合った汚水処理を推進し、市民の皆様の生活利便性向上に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

**【回答③】**

国内における本格的な地熱発電所は、1966年から本格的に運転を開始しており、現在では、東北や九州を中心に展開し、総発電電力量はまだ少ないものの、安定して発電ができる純国産エネルギーとして注目されています。

しかしながら、地熱発電は開発から発電まで10年近くかかると言われ、見えない地下資源を採掘するための「コスト」と「開発リスク」をどのように解消していくのが、課題となっています。

このことから、現状でみどり市においては、地熱発電の予定はございませんが、他自治体（日光市、片品村）との意見交換を実施するなど、今後検討していきたいと思っております。